

令和6年度 第3回益城町子ども・子育て会議（要旨）

日 時 令和6年10月22日（火） 10:00～12:00

場 所 益城町庁舎2階 会議室2-4・5・6

出席者 委員会：今吉会長、吉村委員、荒木委員、梅木委員、平城委員、岩本委員、池田委員、
田口委員、福山委員、中路委員、松本委員、藤井委員、谷川委員
益城町：こども未来課 吉住課長、村上係長、江崎係長、山田主査
（計画策定業務受託事業者）株式会社サーベイリサーチセンター

欠席者 白石委員

◆ 概要

◇ 開会

◇ 会長あいさつ

◇ 議事の公開について（審議）

- 傍聴者なし。
- 後日、会議要旨を町ホームページで公開。

◇ 議事

（1）【こども計画】アンケート等調査結果の概要について（審議）

- 資料を用いて説明。アンケート等調査結果について審議。
 - アンケート回答数・意見投稿数が少なかった点については、今回調査等に使用したオンラインツールを利用するハードルの高さや、そもそもオンラインでの回答にまだ馴染みがないといったことが要因として考えられる。
 - 「人や社会の役に立ちたい」と回答した若者・小中学生が意外と多い。私たちは、「支援」というと「こども達を守る」と考えがちだが、こども・若者も守られるばかりではなく、何かの役に立ったときに自分の存在感を感じたり、そこで居場所を実感することがあるということを忘れてはならない。様々な取組の中でこどもや若者を常に意識しながら一緒につくっていくということが、今まで以上に必要。
 - 公園の整備やこどもの遊び場の整備など、いろいろな社会資源の整備が急がれるといった意見が幾つも出ている。
 - こども達の自己肯定感が高い。こども達がそう感じられる状況にあるというのは、町にとっても非常にいいこと。
 - 「社会を自分の力で変えられる」の回答割合が、こども本人は約3割、若者は約2割、大人は約1割と、いう状況。「夢を描いて自分たちの力で変えられるんだ、益城町は変えることができるんだ」ということを実感してもらえるようなまちづくりが必要。
 - こども達が将来どんなことをやりたいのかといったところを、職場体験等、教育の中で経験してもら

うことはとても重要。

- 発達検査・発達支援について、これまで「こどもL.E.C.センター」の無料事業は小中学校だけで案内していたが、保育園でも活用を。
支援の種類や相談先等、いろいろな情報を、各教育機関や福祉施設等、保護者が共有でき、支援が必要なこども・家庭が必要な支援に繋がるシステムがあると良い。
- すでに実施しているファミリーサポートセンター事業や一時預かり事業、実施に向け検討中の誰でも通園制度等、子育て支援事業の利用を希望する・希望しない理由を考える必要がある。
保護者のニーズを満たすためにやっていくというのは本末転倒。あくまでこどものための事業であることを基本に考える必要がある。

(2) 【こども計画】計画書の構成と骨子案について（審議）

- 資料を用いて説明。計画書の構成案について審議。
 - 施策の展開では「こどもまんなか社会づくりを地域全体で推進するために」を一番最初に構成し、町として「子どもの権利を大切する」ではなく、「子どもの権利は守られて当然」という姿勢を示すべき。
 - 学校等教育機関で「子どもの権利」について、しっかり学び・知ることができる機会を設け、こどもの意見を聞き、学校等の施策に反映させる仕組みを益城町でも実現させてもらいたい。
 - 後日実施するこども計画のパブリックコメントについても、こども達への説明とフィードバックをもらい、反映させなければ、「こども達のための計画」にはならない。

(3) その他（説明）

- 11月確定見込みの町総合戦略の人口推計を受けて、量の見込みの算出を進める。
- 第4回会議は、令和6年12月6日（金）19時から開催。（従来の予定に追加して開催）
- 第5回会議は、令和7年1月10日（金）10時から開催。

◇ 閉会